

まちづくり交付金 事後評価シート
船引駅周辺地区

平成22年3月

福島県田村市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	田村市		地区名	船引駅周辺地区			面積	30ha		
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	636.7百万円	国費率	0.399				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	県道改良事業(1路線、市事業)、市道改良事業(2路線)、駐車場(2箇所)、駅前広場(1箇所)、駅前公園(1箇所)										
		提案事業	なし										
	事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成17年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	コミュニティプラザの利用増加	人/12h	1,733	平成16年度	2,500	平成21年度	モニタリング	評価値	○	あり なし	従前値及び目標値はTMO調査による駅利用者数から算出したものであったが、適切な数値の計測方法ではなかった。そのため、施設完成初年度の利用者数5,144人を仮の従前値とし評価したところ、平成20年の利用者数は14,553人と約3倍であるため、目標を達成したものと判断した。	平成22年3月
	指標2	船引駅周辺施設の利用促進	台/日	50	平成16年度	200	平成21年度			○	あり なし	コミュニティプラザ利用促進のための駐車場であり、利用者は増加が見込まれる。さらに、駅前公園、駅前道路の整備により周辺施設の利用促進に貢献している。	平成22年3月
	指標3	人の賑わいのある空間の創出	人/年	0	平成16年度	20,000	平成21年度			○	あり なし	イベント時には歩行者と車の交通が錯綜し、危険な歩行者空間であった。歩車分離により、安全が確保され、駅前公園もイベント会場として定着しつつある。	平成22年3月
	指標4	船引駅周辺歩行者の増加	人/日	1,057	平成16年度	2,000	平成21年度			×	あり なし	イベント時の通行量は確実に増大し、整備効果は果たしている。ただし、指標は日常的な通行量を対象としたもので、少子高齢化が進む中で目標達成が容易でなかった。	平成22年3月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	当地区整備前に行った整備ニーズに関する調査において、バス乗降場の整備や公園整備が求められている。それらは既に整備済みであり、地域住民にとって十分満足度は達成されていると考えられる。今後駅前道路の歩道が完成することにより、駅周辺の歩行者の通行が安全で円滑になり、交通安全に対する満足度は十分達成される。												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	コミュニティプラザの利用客については、「(株)まちづくりふねひき」において、平成16年の開設以来毎年整理しており、年々増加している。				実施状況				今後の対応方針等			
						都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●			
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				
住民参加プロセス	中心市街地活性化を目的としたTMO「(株)まちづくりふねひき」によるコミュニティプラザの管理運営、市民参加によるまちづくり委員会(田村地域デザインセンター)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				
持続的なまちづくり体制の構築	駅前の商店街の取り組みとして船引駅前公園を活用した露天を定期的に開催して賑わいの創出した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				

様式2-2 地区の概要

船引駅周辺地区(福島県田村市) まちづくり交付金の成果概要

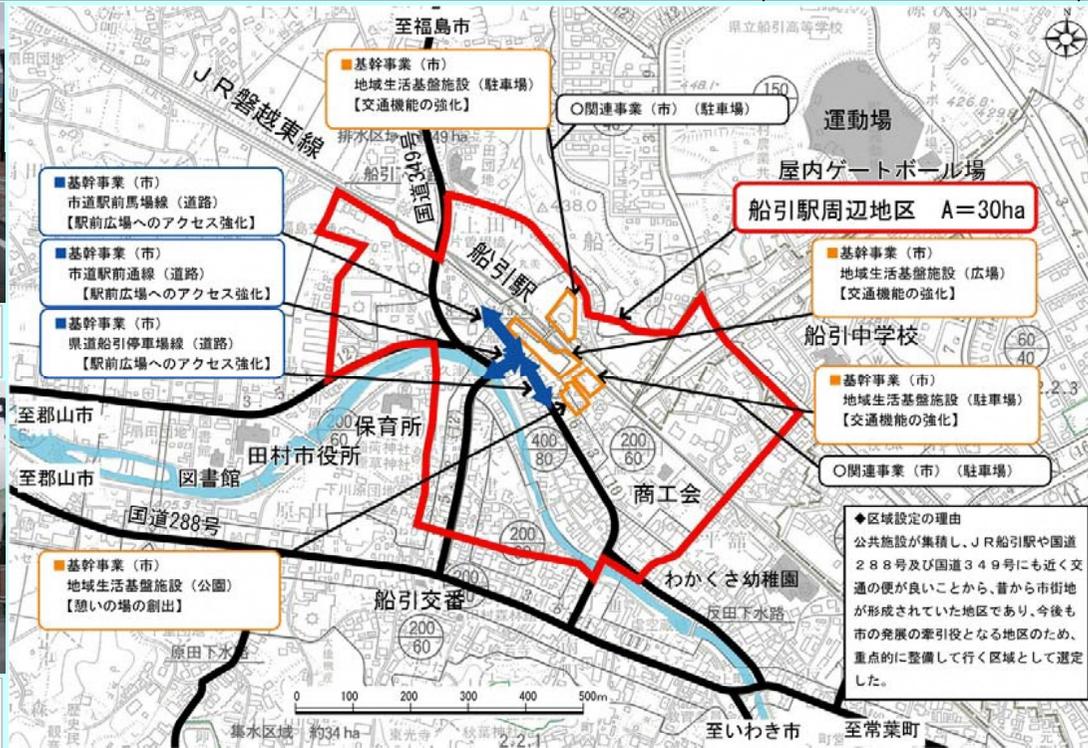
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標：ふれあいと賑わいの創造 目標1：子供から高齢者が集い話らのできる賑わいのある中心市街地の再生を図る。 目標2：交通広場、駐車場の整備を行い、交流拠点としての憩いの場を創出する。	コミュニティプラザの利用増加	単位: 人/12h	1,733	H16	2,500	H21	14,553 人/年	H21
	船引駅周辺施設の利用促進	単位: 台/日	50	H16	200	H21	255	H21
	人の賑わいのある空間の創出	単位: 人/年	0	H16	20,000	H21	25,000	H21
	船引駅周辺歩行者の増加	単位: 人/日	1,057	H16	2,000	H21	903	H21



県道船引停車場線を始め駅前の道路は歩車分離されイベント時の安全な通行が可能となった。



コミュニティプラザは地域交流の拠点でありシンボル施設となった。



地域交流の場となった駅前公園



駅前広場のバス乗り場が整備され安全な乗り継ぎができるよう改善された。

まちの課題の変化
 本事業の目的は、事業計画段階では中心市街地活性化計画の流れの中で検討されていたため、賑わいのある中心市街地の再生を大目標に交流拠点としての憩いの場を創出することであった。駅前広場、駅前公園、駐車場はコミュニティプラザ利用促進のための施設整備であり、その目標は十分に達成された。具体的には、駅へのアクセス道路の歩車分離による交通の安全性の確保、地域交流の場としての機能の充実や地元商店街等の新しいイベントの創設等である。しかしながら、駅周辺整備を進める中で、少子高齢化はさらに進み日本たばこ産業原料事業所の閉鎖の影響も顕在化し、地元商店街の衰退は歯止めのかからないものとなった。このような状況の中で、駅周辺施設や地元商店街への来訪者、駅周辺の歩行者を増大させるために、駅周辺をシンボルとし、公園整備や南北を連絡する道路の整備が必要となり、駅周辺は公園整備等の効果として駅北側の新市街地と駅南側の旧市街地を結ぶ地域交流拠点としての役割がクローズアップされ、まちのシンボル空間の形成という課題へと変化している。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 残された課題として、南北新旧地域の交流には安全で快適な道路整備が不可欠であり、道路整備事業等において事業化を図るとともに、駅前街区の賑わい創出について、TMOや商店街と連携を図る。